

## 川内北中校区 令和コミュニティトーク 要約

日 時：令和4年10月4日（火） 14：00～15：46

場 所：中央公民館 ホール

### 出席者

市：田中市長、福元副市長、未来政策部長、教育部長、秘書広報課長、コミュニティ課長他

地域：川内北中校区の3地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民  
37名 (合計49名の参加)

### 市政報告 市長

皆様こんにちは。お忙しい中、この会にご出席いただき、感謝申し上げます。また、これまでの市政運営に多大なご尽力、ご協力を賜り、重ねてお礼を申し上げます。このコミュニティトークは、市民の皆様と市長と直接対話の場で私は皆様の声を広く聞く、広聴の1つとして実施している。

本市は非常に広いが、48地区を10会場に分け行っている。一昨年からのコロナ禍で思うように開催できなかったが、10会場のうち、この川内北中校区が9回目の開催で、本当に感謝している。残りが平成中校区で、年内で2年かかり一巡する。毎回市議会の皆様にもご出席いただき、感謝申し上げます。

まず新型コロナウイルスワクチンのことであるが、令和2年の3月に世界的に発生が確認され、本市のワクチン接種も令和3年3月から行っており、すでにワクチン接種だけでも1年半が経過している。なかなか収束は見え、以前よりは減少傾向にあるが、まだ収束宣言は出ていない。よく言われるように、新型コロナウイルスを厳しい2類から、インフルエンザ並みの5類へという動きもあるが、政府もまだ機関決定していないので、収束はしていないという状況である。これからもやはり、手洗い・換気・マスク、これらの対策は、当分は必要と考えている。なお、今朝か昨日のテレビで、総理大臣が外ではマスクを外して良いと言われたようであるが、統一的にまだ通達・通知は来ていないので、そういう方向にあると受け止めている。

ワクチン接種は、3回目を接種された方が、全市民を分母にすると66%、4回目を接種された方が12%である。またオミクロン株対応の1番新しいワクチン接種も開始され、4回目を行った私などは次が5回目になるが、例えば4回目を打たれた方は5カ月後に、オミクロン株の新ワクチン接種の接種券が届く予定になっているので、希望される方は、ぜひワクチン接種をお願いしたい。

私が令和2年11月7日に岩切市長の後に市長に就任した時の本市の罹患者は9名であった。しかし、この1年10カ月の間に、良い悪いではなく、数が増えたという意味で、1万5,000人を超えている。やはり、全県的に、全国的に、世界的にこの新型コロナウイルスの感染力の強さというのが、自分自身も身を持って、数字を見ている。それから令和2年度、3年度は、本当にこのコロナの影響を受け、ち

ようど地区振興計画の振り返りの中で、各会長からも話があるが、自治会単位、地区コミュニティ協議会単位、市役所単位でのイベント行事を中止・延期としたが、令和4年度からは、これは48地区コミュニティ協議会会長会議で申し上げたが、気をつけながら開催していこうと、市の主催、共催の行事は基本的に4月からその考え方で進めてきている。

これまでの全市的な行事としては、消防団の操法大会、川内川花火大会、先日の川内大綱の綱練り、近く開催予定の市民運動会、市民運動会は5年ぶりの開催、大綱練りも3年ぶりの開催だったということである。それから、今後のはんや祭り、JAフェスタと豊稔まつりもおおむね全体的に3年ぶりに規模縮小してでも開催するという方向であるので、各自治会、各地区コミュニティ協議会もお考えがあり、最終的にはお任せするが、開催する場所の広さ、時間、人数を調整しながら、基本的には気をつけながら開催していくことで、ご検討をお願いしたい。

災害対応であるが、一昨年、昨年と集中豪雨によって災害が発生している。先日も9月11日から19日まで、台風14号が最大風速50m、瞬間風速70mという気象庁の予報があり、身構えて、私ほか職員が2泊3日で対応した。結果的には地理的災害、物的災害もなく良かったと思うが、これからも市の対応として、皆さんにもお願いであるが、最近の線状降水帯は非常に気まぐれで気象庁も予想は難しく、台風も昔は赤道付近で湧き上がって、ゆっくりと1週間かけて北上していたが、今は奄美沖で、日本近海の暑い海で湧き上がり、3日ぐらいで急上昇するので、ぜひ気象情報にお一人お一人、各自治会でも情報共有していただきたい。それから、時間的に真夜中でも防災行政無線で放送することもある。避難指示という発令で、非常に遅い真夜中の時間帯、あるいは豪雨が降ってる時に出た時は、安全な場所に身を置くという考え方で、なるべく早く、明るいうちに注意予報・注意喚起をするので、どこに逃げたらいいか、誰に頼んだらいいかという、安全な場所に身を置くことを心がけていただきたい。避難指示が出てから真夜中の土砂降りの中に、市の指定した避難所に行くことは、かえって危険であるので、その場に応じた安全な場所に身を置く考え方で対応をお願いしたい。

それから、コミュニティ協議会でも防災対応をされているが、各地区コミュニティ協議会、自治会で防災訓練を実施される場合は、市役所にもご連絡いただければ、市の職員も参加・視察に伺う。また、全市的に消防団員が非常に不足しているので、今後のコミュニティの安全安心のためにも、1人でもこの地区内、自治会内の性別を問わず、消防隊員の確保にもご協力をお願いしたい。

川内北中校区の話題として2つ申し上げる。10月6日からの和牛オリンピック、全国和牛能力共進会が鹿児島県では実に52年ぶりに開催されるが、本市からは中郷町の森永三徳さんの肉牛が1頭、このJA北さつまからは1頭、森山さんの肉牛が出場され、非常に誇らしく思う。ちなみに、森永さんは非常に優秀な畜産農家で、今回で3回目の全国大会出場と、このことも素晴らしく思う。

10月15日は川内川の抜本改修関係で、大小路地区の「かわまちづくり」の完成式典が国の主催で行われる。この川内川改修は、大小路右岸側と左岸側の向田の改修が住民長年の悲願であったが、地元の様々な方を中心にご協力いただき、堤防の改修と中郷五代線、それから河川広場がようやく完成となり、このこともご出席

の皆様をはじめ、川内北中校区の皆さんにお礼を申し上げる。

市役所の取組として、これも48地区コミュニティ協議会の会長にもご報告しているが、市役所の組織改革を昨年10月1日、2人の企画政策部次長を配置した。1人は甌島振興局長、甌4支所担当、もう1人が本土4支所担当である。東郷・樋脇・入来・祁答院の支所を統括する次長を配置し、今年4月は合併以来、初めての18年振りに部の再編を行い、令和4年度をスタートしている。

もう1つ、2月にアフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望を5項目発表した。目標年度は令和10年で、今年4月から向こう6年間の向かうべき方向を5項目示し、2つだけご報告申し上げる。

今の48地区の地区振興計画の改定を令和4年度、5年度お願いし、この計画は令和6年から10年までの5カ年になる。今年と来年で、48地区の振興計画を作り替える。その作業の中で仕事の中に10月1日付で、48地区各地区に1名ずつ市職員を地区支援員として任命するので、そこをパイプ役にしながら、皆様の意見を聞き、市役所全体の状況も各地区に配置した1人1人の市職員が、連絡調整を行う体制を取ることにしている。

それから、中期的展望でもう1つ。川内火力発電所跡地の活用で、名前は「サーキュラーパーク九州」と分かりづらいこともあるが、火力発電所も合計100万KW、48年間運転してきたが、今年4月に九州電力が火力発電所を廃止した。その跡地が32haあるので、これを市の将来発展に資するというやり方をお願いしており7月26日に、この32haの活用について、市役所、九州電力、早稲田大学、ナカダイというリサイクル業者、それから鹿児島銀行の5者で協定を締結した。このナカダイは、群馬県のリサイクル業者であり全国的にも取組が有名で、集めた資源物のリサイクル率が99%で、再利用に転換しているノウハウと実績を持っている企業である。

何をこの場所でするかとお申し上げると資源循環の企業立地と研究機関の立地誘致を進める。10月6日から火力発電所設備の一部撤去が開始されるので、少し時間がかかるが、火力発電所も目に見えた形で形を変えながら、環境配慮の企業誘致、それから研究機関の誘致を進めていきたい。

この令和コミュニティトークは、これまではまちづくり懇話会という名前だったが、変更点があり、まず3地区コミュニティ協議会会長に主な地区振興計画の振り返りをお願いしている。事前提出議題の答弁については、本日までに十分会議はしてきたので、本日は福元副市長、古川未来政策部長が答弁する。福元副市長は県庁からの優秀な土木次長級で、招へいして議会の承認に至った。コロナ禍の影響で平常時の総会集会や懇親会で顔を見せる機会が少ないことから、今日はよく見ていただき、副市長の専門的な、技術的な答弁を期待くださるようお願いする。

最後に基本的な考え方で、冒頭、広聴広報を、広く聞くことと、市民広報を大事にしたいとお申し上げたが、市議会制度と自治組織を、地方自治・住民自治の基本として、非常に重要視している。556自治会とそれから48地区コミュニティ協議会、これを住民自治の基本的な組織として、重要視しており、これからも直接意見を聞きながら、重要視した政策を進めてまいりたい。この人口減少の中の自治組織の運営の難しさ、これまでの8地区でも出てまいった。しかしながら、やはり人口

減少の中であればこそ、自治会とコミュニティ協議会における声かけ見守り、助け合いが非常に重要で、アフターコロナの中でも、そういった繋がりが非常に大事であると思う。これからも地区コミュニティ協議会と、各地区内の全自治会が一体となった取組を進めてまいりたいので、皆様の様々なご提言、ご要望をお聞かせいただきたい。本日もよろしく願います。

## 地区振興計画振り返り

### 【亀山地区】

- ・ 今コロナの中で、もう3年前から大きな行事ができないと、非常に苦慮している中にはあるが、他の行事については密を避けるという形を取って、今進めている。なんと言っても、地区コミュニティ協議会の振興計画の1丁目1番地にある安心安全なまちづくりと地域の活性化、この2点を中心に亀山地区コミュニティ協議会では今行事を行っている。幼稚園、小学校、中学校とあるので、生徒たちを若い人をとにかく交えた中で、行事をしようと、振興計画の中にも入れて行っている。
- ・ 一番のイベントの夏祭りは、大勢来るので、中止せざるをえなくて3年中止になっている。また、その他の行事については、今月文化祭をやる。今まで発表会など色々やったが、展示のみの簡素化した文化祭を去年から実施している。その中でもかかし祭りとして、かかしはマスクもつけてないけど、物も言わないし、密にもならないと、今どんどん募集しており、かかしを制作してもらっている状況である。
- ・ 先ほど市長からも川内川の抜本改修の話があったが、亀山小学校の辺りから、小倉の須崎橋の間が強靱化事業で、6mほどの堤防を作っていただいた。散歩コースであり、皆さんが非常に喜んで、たくさんの方が散歩されている。せっかく綺麗にしてもらったことで、中学生を交えて、ごみ拾いも年に1回はやろうと7月に実施した。国土交通省には、非常にお世話になっており、亀山地区コミュニティセンター前の畑と休耕田を埋め立てて、フラワーランドを作ってもらい、また、地区コミュニティ協議会では、豚汁や餅つきで薪がいるが、川内川の流木をたくさん準備いただいて、薪の問題も解決している状況である。
- ・ イベントとしてグランドゴルフなどをやっているが、特に、今1番気を遣っているのが、稲刈りが終わった後の11月初めに男のサロンを始めて5年目になる。集まりとなると、女性が非常に多くて男は来づらいという点があり、コロナで50名限定でやったが、会費500円をいただいて、みんなで豚汁を作って食べて笑って、女性禁止で、いままではコミュニティ主事もいたが、出入り禁止で、入れず残念だったという話も聞いている。男をコミュニティ協議会の活動に引き込まないと、男性は引きこもりがちなので、お互いの昔話などする時間になり、やってみて非常に良かった。他の地域にも広めたいと思っている。ご飯を炊いて、芋を入れて、食えば懐かしかったと、喜んでいただいている。
- ・ 市からマイスター事業補助金をもらって、2年前に空いた部屋があり、図書室をくつろぎの部屋にと地元の大工に作っていただいた。そこには不登校の小学生が宿題をしに来たり、先般も車椅子に乗った高齢者夫婦が来て、車椅子のまま入

ってもらって、くつろいでいただいていたなと思っており、高齢者に優しいコミュニティセンターにしていきたい。

- 我が地区の収穫祭りで餅つきをやる。毎年、5俵120kgをつく。すごい量なので、自治会長も高齢化し、力が無い中を川内北中学校の部活にお願いしたら、最初は水泳部が冬は何もしないと来てもらったが、他の部も来たいとなったので、約30名を目処に来ていただいた。一生懸命ついて、和気あいあいとやってくれて、中学生は頼りになるなと思ったところである。
- 亀山小学校5年生の学習田もある。そこは18アールもある非常に大きい田んぼで、子供たちは6アール、あとは機械でやるが、そこでもち米がいっぱい取れるので、子どもたちにも色々と体験をさせている。
- 今のところは、私も自治会長にもコロナで中止はいかんよ。せめて行事がなくならんようにやった方がいいよ。と、何年もやらなければ、しないのが当たり前になってしまうんじゃないかと思っている。
- 宮内は奴振り踊りといって、竹を切ってまといを作る。今年は、新田神社の御田植祭も、最初は中止の方向だったが、3年しないと、竹を切るのも6年生でないといけないとか、様々条件があり、作り方も継承できないということで、他のところは断ってもらって、宮内だけ御神田で奉納させていただいた。これが伝統の継承になるんじゃないかと思い、ひと安心している。
- 亀山地区コミュニティ協議会は中止ではなくて、規模を縮小してでも開催しようと取り組んでいるところで、特に自主学級が盛んである。亀山地区コミュニティ協議会で18の自主学級がある。卓球や水彩画、踊りなど様々あるが、その人たちに花壇を作って1つずつ管理をするようにしており、どの自主学級が管理してるか分かるように学級名を入れた札を立て、コミセンに来て、ただ遊ぶんじゃなくて、花を見て好きな花を植えてくださいとしている。それをまた他の自主学級の人が見ることによって、競争意識も生まれ、地域の景観にも繋がると思っている活動で、市環境課の補助金を活用し、非常にきれいな花壇ができるのではないかと思っている。
- 今のところのコミュニティ協議会の進捗状況については、コロナ禍であって、中止もあったが、順調に行っている。

### 【可愛地区】

- 来年度までが第4期の振興計画ということで、24項目を設けて推進している。ご承知の通り、こういう社会情勢になった関係で良かった点、悪かった点、大まかに申し上げると、24項目目に掲げました地域の活性化、大阪から地域おこし協力隊が来ているという関係もあり、かわまちづくりの「リバーサイトビューエの」を7月に開催した。何人来られるかと心配していたが、なんと300人どころか、1,300人においでいただき、市の部長方にも後片付けをいただきご迷惑をかけてしまったが、このようなイベントができて、いい点だったと思う。
- 地域の活性化となるべき体育部門が全面的にできなかった。市も中止であり、我々地区コミュニティ協議会の体育部の行事がほとんどできていない。ただし、総体的に可愛地区の活動的には、令和2年度に鹿児島大学の金子先生を招へいし、

コロナ禍の中の活動ということで、お話をいただいた。先生がおっしゃるには、コロナ対策をしてやるのが非常に大事である。と、非常に参考になった。中止はいつでもできるが、開催ということで、事業ごとの実行委員を立ち上げてやってきた。さすがに令和元年度だけは、ほとんど総会も含めて書面評決だった。しかし、令和2年度からはやっている。コロナに負けるなど、中止というのは、1つの負けに等しいという考えである。中止をすると、現状維持じゃない、衰退・後退だと思っている。規模縮小しながらでも継続していくということは、これからつながるんだという認識のもとに、令和2年度から、令和3年度、そして今年度ということで、規模を縮小しながらやっている。

- 7月のリバーサイトビューエの。これに続いて10月16日はコミュニティフェスタ in 可愛、いわゆる文化祭をやる。規模を縮小して、可愛小学校の体育館を使用できなかったのも、中止はいかんとなくか考えてくれと、我々のコミュニティセンターで、2階に小さな舞台があり、舞台を広げる工夫をしてくれた。コミュニティセンターの2階で、いろんな踊りをやる。生涯学習で、いつもコミュニティセンターを使ってらっしゃる方の発表の場として、ご披露していただく。1階では、作品展示をやる。
- 12月には恒例のまち歩き、これも金子先生に来ていただいてコミュニティ課長にもお世話になったが、もう9回目になる。金子先生からの地域おこしの授業で、鹿児島大学の学生に来ていただいて、我々のシンボルマークである「えのちゃん」、新田神社の恰好をした人形を鹿大生が作ってくれた。
- 来年度以降また新しい第5期地区振興計画についてはいろんな計画を立てて、コミュニティ協議会のあり方、現状のコミュニティ協議会でいいのか、あるいは自治会も含めてもっとしていくか検討しなきゃいけない。
- 平成16年に市町村合併があって、20年近くなる。私は、北島三郎の「歩」という歌が好きで、歩は1つ1つしか前に進まないが、しかしその歩がいつか“と金”になるんだと。できるコマである。平成16年から来たこの時期に我々は“と金”にならなきゃいけない。そういう時期にも来てるんじゃないかと思っている。
- 地区コミュニティ協議会のあり方、自治会のあり方を行政と一緒にやっていこうと、行政に言われるまま動くんじゃない。我々にできることはまずやって、そして自治会員に元気になってもらって、コミュニティ協議会も一緒になって、行政と前に進んでいきたい。このように考えている。コミュニティ協議会は前の公民館というイメージが残ってるんじゃないか。そうじゃない。16年も経てば、社会が変わっている。生活様式も変わっている。我々も変わらなきゃいけない。コミュニティという位置付けを本当に大事なものとして捉えていきたいと思っている。コミュニティ協議会は地域のためになる少々の業務は、地区コミュニティ協議会でやりたいなど。少しぐらい予算をいただきたい。
- 我々にできることは我々で、大きなものはしてもらわなければいけないが、この前の「とくとく商品券」、この問題も自治会員は、コミュニティ協議会で対応すればいいんじゃないか。やり方的には反省しなければならない面があったと思うが、この反省をこれから地域のコミュニティが元気になって、行政の仕事もコミュニティ協議会でやっていく。

- 地区の周りには学校や警察や病院もある。1万1,000人の可愛地区である。この可愛地区のキャッチフレーズはみんなで語り合い、みんなで協力をして、みんなで活動して、行動する。私はみんなってという言葉が好きで、1万1,000人がみんな一緒になってやっていこう。コミュニティセンターにみんなが集えるようになっていきたいなと思っている。
- 貧乏コミュニティ協議会であるが、ユニフォームがようやく回った。新品で、胸元に7つの棒がある。皆さんご存じないと思うが、川内川でもないこの7つの棒は、コミュニティ協議会の組織の中に、7つの事業、活動部隊があり、7つの部は一生懸命活動しなければ、可愛の活躍はないと自負している。この棒はそういった意味で、7つの活動部隊に、去年と一昨年、事務局も強化した。組織をガラッと変えて、事務局がしっかりしないと。
- 7つの外部活動部隊で、事務局と活動部隊とをしっかりと分けて、特に、7つの部の中には、自治会長の集まりである自治連、相当期待量は大きいし、頑張ってもらわなきゃいけないと思っている。
- 可愛地区としては、まだまだなところがいっぱいあるが、1つ1つみんなで協議し、行政の知恵を借りながら、また行政と一緒に動いていくことを第5期の振興計画に盛り込みたいと思っている。このあとフリートークがまたあるので、そちらの方でも、詳しいこと、お願いしたいこともあるので、発表させていただきたいと思っている。

### 【育英地区】

- 地区振興計画の振り返りの前に、コロナ禍でも毎月続けている事業があるので、紹介する。育英地区コミュニティ協議会には自主学級が18グループある。コロナ禍の中でも毎月第1と第3の土曜日に、わくわく農業体験を実施している。この取組は、コミュニティ協議会創設時からで、現在の会員は19世帯で、小学生が土になじみ種まきから収穫までの過程を体験し、子供たちに農業・食の大切さを伝えることを目的にしている。今後、必要だと考える取組は、収穫した野菜でカレーライス作りや、すき焼き鍋等の料理を提供し、野菜の苦手な子供たちに取れたて野菜のおいしさを味わってもらおうと考えている。
- 地区振興計画振り返りについて、基本方針が5つある。1番目、安全・安心なまちづくりこれが10項目、2番目、健康で安心して暮らせるまちづくり5項目、3番目、豊かな心をはぐくむまちづくり13項目、4番目、いきいきと活力あるまちづくり12項目、5番目、環境の美しい街づくりこれが8項目、全体で48項目です。48項目で、A評価とB評価の割合は、37項目があり、77%に達した。よって、事業効果はおおむね達成できたと思われる。
- 進捗状況は、最も良かった事業として、地区内の防犯活動についてである。現在、17名の青パト隊員で、通年パトロールを実施している。令和2年度の10月に、鹿児島県から県民会議防犯団体賞をいただいた。これからも、地域ぐるみの防犯活動の促進と、犯罪の抑止力を図れるよう継続して強化していく。
- 進捗状況は、最もうまくいかなかった事業として、自治会の充実についてである。育英地区の自治会への加入率は、令和4年7月1日、現在65.37%で、本

市でワーストNo.1である。新しく転入された方は、1日も早く地域に親しんでいただくためにも広報回覧を通じて、自治会に加入を勧める努力をしている。また、住み良い豊かなまちづくりを目指し、地域における様々な問題解決のため、毎月1回役員会を自治会長9名、専門部長6名、三役と事務局5名の20名で実施し、地域での触れ合いを広げて、人々の全体意識の向上を努めていきたい。

### 市長コメント

3地区の会長から、詳細な振り返りのご報告をいただいた。ご出会の皆様の、自分の地区あるいは隣の地区の振り返りは詳細にお分かりいただけたと思う。全体的に、うまくいかなかったことについては、3地区ともコロナ禍というのが非常に全体的な縛りになってるといえるのは、間違いのないところである。しかし、3地区ともこれに負けずに、可能な限りのイベント行事を規模縮小してでもやろうということで、非常に力強く感じている。

亀山地区において、良かった点は、安全安心活性化の取組の方針のもとに、小中学生を中心にとり組む取組方、それからコミュニティ活動に男性を引き込むという考え方と実行、それから、国とのタイアップということで、非常に参考になる面があった。具体的には、男のサロン事業や、収穫祭、フラワーランドの花いっぱい運動、今年は文化祭を規模縮小で行えることから、非常にこの多彩な取組が報告されて参考になった。

可愛地区においては24項目あって、特に「リバーサイドビューエの」。300人参加想定が1,300人と、私も少しだけ参加させていただいたが、地域おこし協力隊と地区コミュニティ協議会がタイアップした成功例、モデル例になるもので、これからも可愛地区のみならず、川内北中校区の市民が広くこの河川広場を中心に使えることが実証されたと思っている。今後もコロナに負けずに力強く、文化祭、まち歩き、そういったことをやろうという決意表明と言いますか報告があり、これも非常に参考になった。また、地区振興計画の振り返りを読ませていただいたが、高齢者のまるごとささえ愛事業、特に高齢者の災害時の避難が課題だということがあり、これも全市的に早めの避難にしても、家族、ご近所、自治会・コミュニティ協議会の方で声をかけて、特に、独居老人、高齢者の災害時の避難体制というのは、身近なところで作り上げていく必要があるなということを感じた。

育英地区においては、5つの方針のもとに48項目の中でA評価、B評価、おおむね順調に進んだという評価で、77%がA、B評価ということで、特に、子供たちも巻き込んだわくわくふれあい農業体験、19世帯の取組が長くされていることや、青パト隊員17名による非常に地道な防犯パトロール、中郷上池周辺の花いっぱい運動、これも環境美化で、良かった点と報告されていた。特に自治会未加入の問題は、大きなテーマでもあり、今日の議題の中でも、これまで開催した8地区の令和コミュニティトークでも出ており、全市的な大きな課題と受け止めている。地区振興計画の性格上、今日の9会場目を含めて、子どもの育成・見守りの体制、高齢者見守り、環境美化、防災、自治会、地区コミ単位の地区内の交流の問題、地区外との交流の問題と、これからも非常に身近な助け合いといったところは、

地区振興計画の見直しをしながら、今日ご報告のあったことは、基本的に続けていくべき性格のものなのかなと考えている。

今後目指す川内北中校区の姿ということで、これはどこの地域でも問われていたが、地区振興計画の報告があったように、大きな北中校区の中で、コロナ禍でこれまでの自粛を、原点に立ち返って3年前の地区活動を取り戻すことが、1ラウンド目かなと私は思っている。その中でどの事業を強化していくか、見直すかというのは、これから4年度、5年度、地区と市役所と一緒に考えなければならない大きなことだと思っている。

最後に2点申し上げるが、この人口の差のことであるが可愛地区コミュニティ協議会の会長から可愛地区が、1万1,000人というご報告だった。本市48地区ありますが、亀山地区はおよそ7,600人、可愛地区が1万1,000人、育英地区が5,000人で、数字だけ申し上げると、1番大きな地区コミュニティ協議会は、平佐西地区で1万4,000人。1番小さな地区コミュニティ協議会は、23人で下甕町の内川内地区が同じ地区コミュニティ協議会の名の元に地区振興計画を作ってやっている。自治会も556あるが、1番大きな自治会は育英の鶴峯自治会が1自治会で1,700人です。これからも各自治会、各地区コミュニティ協議会がいろんな地域活性化の課題があるが、人口の多い少ないに関係なく、各々の場所のところを振り返りながら、将来見据えて、子どもたちに何ができるかという発想の元にしていくべきだなと考えている。

他の地域でも出てきたが、自治会の再編、合併のことであるが、例えばある地区コミュニティ協議会の中で自治会の合併を議論したい。あるいは、地区コミュニティ協議会の合併を協議したいというところがあれば、市としては、その会議に出席して意見を聞くことにしている。合併を推進するということではなく、協議することを推進するので、材料とか色々なこと他地区の例、市内の他の自治会の合併例や、コミュニティのあり方についての助言とかはするので、自主的な議論があれば、市役所にお知らせくださるようお願いする。

議会にもお知らせしているが、令和4年度と来年度にかけて、自治組織である自治会、ゴールド集落、地区コミュニティ協議会の関わり方の見直し、自治会と地区コミュニティ協議会に関わる補助金については、全体的に4年度、5年度で検証して見直す方向である。4年度、5年度で見直し、1番最初にお願いした新しい地区振興計画がスタートする令和6年度の地区振興計画に合わせて、自治組織と補助金の見直しを同時進行で、マッチできないかなと今方針としては、議論を進めている。また、各地区に1人1人担当の職員を10月1日に配置したので、それを通じてでも直接でも皆さんの地区振興計画の報告をお知らせくださるようお願いする。

## 事前提出議題

### 議題1 水害被害について【亀山地区】

地区振興計画の中で、大きな柱で取り組んでいると申し上げた地域の活性化については、発表した通りであり、もう1つ大きな問題は、安心、安全なまちづくりで、表題には水害とあるが、この他にも、非常に耕作放棄地が増えて見通しが悪いと、

市のビジネス事業を活用し、草刈機を買ってもらった。今年は雨が多いせいか、草払いの依頼が多く、注文が来ている。草刈りによって、交通安全の面、不法投棄の問題、鳥獣害の防止、非常にいいんじゃないかと思っている。

安心安全のまちづくりの件であるが、提出した水害被害について、亀山地区コミュニティセンターも建物が2年前に避難所として指定された。

以前は避難所とはなっていなかったが、堤防が強靱化され、避難所ということで、昨年まで昔の橋口公民館の建物とコミュニティセンターと2カ所あったが、今年から1カ所に集約して避難所として活用いただいている。今年台風14号で、かつてない甚大な被害が予想されると、前日から避難については、行政からも放送があり周知徹底され、避難の意識が高まった。亀山地区コミュニティセンターは、55年ぐらい前、昭和46年に高城川が決壊して床上浸水した経緯がある。今60歳以上の方は頭の中であって、台風の風、地震はいいが、水害にはちょっと。と皆さん考えている。それで、台風14号の時もコミュニティセンターに避難所を開設されたが、高齢者、分かっている人は、車でサンアリーナに向かわれて、15、6名の避難者に終わった。高台がないのが亀山地区の欠点である。

以前から小学校の移転の問題があり、亀山地区コミュニティセンターの裏に植平地区がある。畑があるが非常に荒れて、耕作放棄地がある。木や竹が生えたりしているところもあるが、道路が昔の農道であって、入口は3、4カ所あるが、道路の整備をしていただければ、今のコロナでもあるように、1カ所に集中して避難するのではなくて、車中泊ができるような、トイレと水道ぐらいしてもらえれば、建物を作ってほしいのではなく、道路を広げていただければ、土地はあるので、地権者にも相談しながら確保できると思っている。温暖化の影響で、水害が、堤防が頑丈にされたと言っても、高城川が決壊すれば、同じようなことがあるんじゃないかと危惧している。

去年の水害で、高城川も工事をしている。とてもではないが、まだ何年とかかる状況なので、第1の避難所として、新田神社や堤防とかあるが、できるなら、地元のある植平の畑を活用した方が、対応できると思って要望をしている。また、亀山地区コミュニティ協議会が避難所になっているが、そこに避難しても、計算して70、80名と聞いている。先ほど市長も話されたように、7,000人の中の70人ということは、1%。それではとてもじゃないが対応できないので、全ての人が一時避難でき、車で行けるようなところを、身近な植平があるので、ここに道路と簡易なトイレ施設を作っていただきたい。

#### **福元副市長**

会長からお話があったように、亀山地区の風水害時の避難所は、亀山の地区コミュニティセンターを一時避難所として指定をしている。また、2次的な避難所として亀山小学校、川内北中を、自治会避難所として橋口、永田、久留巢、前向、小倉の5自治会館を指定している。ご要望にあった植平地区整備の提案であるが、先ほど、市長以下、現場の方を見させていただいた。昨今の避難のあり方として、車中避難が、大きな災害があったところでは、有効とのお話もあるが、人里離れたところというのもあり、管理上の問題とか、色々課題もあるかと思っている。

亀山地区だけではなく、全市的な課題として調査研究をしていきたい。

また、車中泊については、エコノミークラス症候群とか、または熱中症等の危険もあることから、その辺にも、注意をしていただかないといけないと思っている。

先ほど避難所に人数が入りきれないという話があったが、皆さん避難所に全員避難いただくことではなく、自宅が安全であれば、自宅で避難いただく。崖とか、水害が心配されれば、雨が降り出してからは非常に危険なので、自宅2階への避難や頑丈な近所の建物への避難等、今後はそういった避難も、やり方も考えていかないと皆さんが同じ避難所に全てを収容するのは不可能なので、そういったことも考えながら、また、市として情報を迅速に皆さんにお伝えすることによって、避難誘導していくことも重要だと考えているので、そういった面で対応する必要があると思っているので、ご理解のほどお願いします。

#### **市長**

福元副市長が答弁した通りであるが、その場所も今日見てまいった。これまでの水害でも言われているが、自宅の車両浸水の恐れがある場合は、高台避難も十分にありうるという考え方である。

全市的な課題と申し上げたが、市議会でもご指摘ご提案いただいております、その場所に植平の場所を含めたここだという意味ではないが、その場所にキャパ的に車両避難で全部入りきるかという議論もあるので、また1つの提案、提言として受け止めて、勉強させていただきたい。

#### **【追加意見：亀山地区】**

亀山地区から要望があった植平に避難場所のトイレを作ってほしいとのことであるが、私の経験から、10年ぐらい前に災害があって、水に浸かると近所の亀山校区の事業をしている人たちから、うちは、植平の1番高いところに家があるので、車を何台も持っているから、避難させたいと電話があった。うちは農家でもなく、土地もなくて、家にも置けるようなところがなかったので、大きなトラックとか、置けるところはないんです。久留巢自治会館に1台は止められるかもしれないが、道が狭くてと、断った経験があった。でも、仕方なしに久留巢の大きな道路に、その時は何台か止めてあった。だから、亀山地区からの要望のトイレは作らなくてもいいから、道路を広くしてもらって、地権者との話で草が生えてるところは、草を刈ったりして、車が置ける場所を作っていただけたらと思う。

車で避難もいいが、エコノミークラス症候群やらあるので、無理かもしれないが、事業者は何台も車を持っていたら、避難させたい。水の浸かるところに置いておきたくない。という気持ちはわかる。荒れた畑が植平はいっぱいある。そのためにも道が狭くて、軽自動車がやっと通るぐらいである。だから、1カ所だけは、広い道路を行けるように、作っていただけたらと思う。

全部を広く道路にしなくても、ここから上がっていけば、置き場のところまで行けるところにまでは、4m道路ぐらいを作してほしい。

#### **市長**

先ほどの議題にも出たように、自宅浸水避難の恐れがあった時に、車の高台避難の1つの場所としては考えれると思うが、その広さ自体の問題もあるし、全市的な課題もあるので、勉強、研究させていただきたい。

## 議題2 自治会合併と自治会区域の明確化について【可愛地区】

先ほど市長から、この合併の問題については、粗方のご説明があったので、とやかく申し上げないが、私どもの考え意図は、可愛地区の34自治会の中で1番大きな自治会は320世帯、1番小さな自治会は8世帯と差がある。私どもの考えは、50以下の自治会はまともでないだろうか。頭にあるのは生産性の問題で、8世帯も一自治会、一会長もいる。320世帯も一会長がおる。無駄があるような気がして、私どもは1つの自治会をせめて、100前後ぐらいの1つの自治会にまともでないものであろうか。ということで、随分前から合併という問題に、私どもなりに私なりに考えてきた。

昨年、その8つの自治会を合併しましょう。自治会長もそうしてください。そうしましょう。ということで、了解をいただいた。

そこで、コミュニティ課の課長に来ていただいて、近隣の5自治会で合併問題について協議した。合併はするが、受け手がない。今でも受け手がなくて、そのまま状況がこう着状態ということで、このままでは、どんなもんだらう。というのは、2025年問題以降というのがある。

ご存じのように、いわゆる2025年になると、団塊世代が75歳になることで、非常に高齢化が進むということは、ご存じのことである。800万人という人間が75歳を迎える。この800万人という人間の数というのは、九州7つの県がある。長崎県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、この6つの県が大体800万人である。2025年度以降は、この6つの県が全て後期高齢化を迎える。大変なことである。社会保険の問題やら問題を抱えている。これは行政も当然、人口構成はお分かりのことで、対応策は現実的に見えてこない。であれば、我々ができることは、まず自治会を合併して行こうと。8世帯が本当に運営できていくか。あるいは、20、30の自治会がこれから5年先、10年先やっていけるか、非常に問題があると思う。負担金でさえも払えない自治会になってしまう。今も実際そうであるから、2025年の少子高齢化の問題は、普通の津波は、方法を考えれば、高いところに逃げればなんとか逃れるが、この津波は逃げ場がない。まともに向かってやってくるから、いち早く考えなければならない。合併は反対と言われるが、その反対、生まれ育ったところは自分の自治会、公民館である。でも、このまま放っておくと本当に厳しい状況。空き家の問題。夫婦高齢化、老々介護である。80歳がお互いをみていかななくては。現実的に、私の自治会でも何軒とある。こういう問題を解決するには、自治会が必要になって、資本力を豊かにして、生産性を高めていくことが大事じゃないかなと思いつき取り組もうとしているが、行政は、協議するから進めてください。と言われたが、現実的には進まない。私どもがいくら頑張っても、なんとかここを行政と一緒に進めていく方法はないか。

それと、自治会加入の問題、これも高齢化の問題と一緒に、自治会加入の問題もテーマになっており、どうしたら自治会加入を考えていくことができるだろうか。8月は自治会加入促進月間である。それなりにやっているが、なかなか数字的には上がらない。同じようなことを推進する時代は、もうやめようじゃないか。なんか方法を考えないと、自治会に加入しようとしまいと一緒にである。メリット、デメリット

ットであれば、加入せん方が良かよって、加入すれば役も回ってくるし、生ごみの問題とかいろんなことを言うが、そのようなことはお構いなし。めんどいことは自治会に入らんでも。もうここらあたりで、なんかペナルティというような以前と違ったことを考えないと。特にアパートに入ってらっしゃる方は他人事である。なんとかうちも70%以上あったが、もう減少し60%台と、70%を切っており、このまま、ますますである。自治会の合併は、そういう問題も含めて捉えているが、地域の区域についても小さな自治会であるが、隣同士でありながら、自治会が違う。なぜ一緒にできないか。市民課でお宅の判断でいいと言われたから、私は隣の自治会に入る。そういうような自治会員が何名かいらっしゃるので、区域を明確にした区分け割りができないか。可愛小校区でも可愛に近いが、亀山小学校に行かれる。银杏木川を境に新田神社側をなんとか可愛小校区だけど、新田通り側は亀山ですよ。子供たちも遠いところに亀山小学校に行ってる。可愛小がもうそこ何百m、そういう区分けが、なかなか難しいかもしれないが、行政も難しいとは思いますが、明確化した地域づくりを今後考えていく必要があるんじゃないか。

### **未来政策部長**

自治会合併の話については、加入促進の役所の位置付けをもっと明確にして、今地区コミュニティ協議会で頑張っている自治会加入の取組も、後押しできるようにしたいと考えている。特に先ほども触れられたが、地域の見守り、防災、ごみ出し、それに交流を考えて進めたいと思っており、役員の成り手という問題になると、自治会の規模の話もあるので、総合的に検討する必要があると思っている。また、合併で相手方、受け皿がないことも、我々も承知しているが、相手方も考えていただくきっかけを役員だけでなく、住民の方々にも考えていただきたいと思っているので、皆さんで、自治会合併を考える機運を作っていくといけな思っている。

それから、区域の話については、地図上で把握された区域の通り、市民課に相談、加入の手続きに来られた方には、地図上で説明している。どちらでも構わないような説明の仕方に課題があるところは考えてまいるが、明確な区域を示しても、さまざまな事情で、越境、違うところに行ってる事例をたくさん聞いている。

そういうことが自治会の運営に影響がどうあるのか、ということも含めて難しいんじゃないかとのことで、確かに難しいが、実情に合わせながら地図自体も修正をしているので、引き続き、皆さんの意見をもう少し聞いてみたいと考えている。

いずれにしても、なんとかせないかん。という気持ちは我々も一緒である。市長が申し上げた通り、令和6年度に向けて、どう変えていくかという議論を進めているので、もうしばらくお時間いただきながら、一緒に前に進めたい。

### **市長**

先ほどと重複するが、冒頭申し上げたように本市の自治会も、1桁人口から鶴峯の1,700人。地区コミュニティ協議会も23人から1万4,000人と、それこそ千差万別あるので、基本的には、アフターコロナの中で556自治会、48地区コミュニティ協議会が持続可能な体制が組めるかという議論、このままでやって行こう、やっていくことができるのか。という議論をしていただきたい。今、現実的によくわかるので、そういった向き方で、市も、地区振興計画の見直しであるが、

絶対合併しなさい。という意味ではない。この千差万別の人口、その中で我が自治会、我がコミュニティ協議会は、数十年にわたってやっていけるか。という議論をされることは、奨励する。

それから、根拠に基づく行政執行ということで、人口見通しについて、我が国の総人口は数十年間減り続ける。統計的に、今のままでは、薩摩川内市も鹿児島市も東京都も減る。この統計の数字を前提にし、市の政策としては、当然定住人口は1人でも増えるような政策、各地区が取組をやっているイベント事業、交流、関係人口を増やそうと力を入れなければいけない。と考えているので、会長のご指摘、ご意見も、これまでの8地域でも切実な問題として出てきているので、深く受け止めている。

### **議題3 銀杏木川の治水対策について【育英地区】**

これまでも幾度も要望してる議題で、育英地区管内は、市が管理している重要河川で、中郷の上流部を起点とし、おれんじ鉄道付近までの延長約2kmある。現況の河川幅は、幅3mから4m、深さが2mから2.5mぐらいで、一定の河川幅でなく、狭い箇所、通称ボトルネックというが、それが数カ所存在し、洪水時に障害となっている。当地区は、区画整理事業が完了し、おおむね34年経過している。銀杏木川の上流部の一部を残し、河川の左右側に家屋が立ち並んでいる。この宅地化に伴い、遊水機能はなくなって、台風等の大雨で度々水害を起こしている現状である。用地買収して河川の拡幅が望ましいが、下流部の水道局付近の国道267号の直下を暗渠で、「く」の字型に蛇行して、横断して、下流部に流れている。水道局付近の河川改修は、新たにバイパスを築造することで、水害の解消につながると思うので、ぜひ検討を願う。また、護岸の嵩上げ工事と川幅の狭い箇所の改修も並行してお願いできればと思っている。

#### **福元副市長**

銀杏木川の要望は、前回の前市長の過去の会でも議題になっている。会長がおっしゃるように、水道局の国道267号を戻っていくところと、おれんじ鉄道の下のカ所が構造物で、ボトルネックになっている場所である。前回もお答えした通りであるが、そのカ所は、改修するとなると非常に多大な予算を必要とすることから、早急には難しい。という話を前回もしたと思う。おっしゃるように、バイパスで下流に水を抜く方法や、越水するところの護岸の嵩上げと、そのようなメニューを委託で成果としてあげている。現実的には、課題が色々あるので、もう少し検討する必要があると思っている。流域全体で水害対策を行う、流域治水という言葉があるが、国を挙げて、内水被害が多いところについては、例えば、一時的に水を溜める遊水池、公園の下を使うなどといった方法や、先ほど申されたような、バイパスを作るとか、そういったメニューもあるので、予算の中で、少ない経費の中で、最大の効果が得られるような方法を、治水の協議会もできているので、考えていく必要があると思っている。

あとは、適宜行っている水路内の寄り洲除去も合わせて行っていく必要があり、引き続き、維持管理も行っていきたいと考えている。

#### **市長**

福元副市長が答えたが、ちょうどボトルネックの肥薩おれんじ鉄道の下の部分からが県管理河川になっており、これまでも要望し、今年も市の重要要望項目23項目の中に箇所を明示して、塩田知事には要望した。また、強く要望を続けてまいり。それから、各地域の令和コミュニテークでも出されている寄り洲除去について、市の管理部分については、令和元年度、2年度、4年度、寄り洲除去をして、越水の原因にならないようにしているので、個別に市管理部門の寄り洲除去等について、要望があったら市にお知らせくだされば、速やかに対応する。

## フリートーク

### 【意見：亀山地区】

子供たちの通学路の歩道のラインについてお聞きしたい。昨日、子供たちの通学路を歩いてみたが、両脇の歩道ラインが消えてるところが多々ある。前にもあった通り、フェンスまでは作らなくても、トラックが子供たちに飛び込んで、死傷事故があった。検討はされていると思っているが、いつ対策をされるか。各担当でやるかもしれないが、結構消えてるところと子供たちが学校の近くで、どの道を通っているか定かではないが、通ってみたら、途中でラインが引いてないところもあったりする。子供達が通学路にしてるかどうか、わからないが、ラインのところを見てもらって、消えているところ、早急に危ないんで、ラインを引いてもらえないか。川内北中校区、可愛、育英、その地区も全部見てもらえれば助かる。その辺を検討してもらえるか。

それと、もう1点。堤防を綺麗にしてもらって、道路が良くなった。亀山地区の堤防の下を市道が通っている。前向の集落から何百mか堤防横の市道を綺麗にしてもらった。前にも言ったことあるが、堤防の草を刈っている綺麗にしてもらう時に、市道の反対側じゃなくて、家屋側のところに市道から法があるが、その法のところに、草が生えている。前も年を取った方で刈らないか尋ねたら、もう年を取っている。刈れないということで、地区の担当の方が刈っているところもあれば、その家の人が、その堤防との周りのところの草を刈られる方もいらっしゃる。でも、刈れない人もおり、草が、景観上良くないので、その堤防のところは、草を刈っているときに1回聞いたことがある。河川の人に此処もついでに、機械で刈ってもらえないか。と尋ねたらそこまではできない。とのことだった。景観的にもあまり良くないので、法面のところを1回は見てもらって、刈ってもらえば、せっかく道路をきれいにしてもらったのでということ。2点、よろしく願います。

### 市長

通学路の交通安全は、非常に重要な問題である。亀山小地区については、今日も周囲をぐるりと見てきたが、ゾーン30の設定や、路肩、カラー舗装のグリーンもしてある。広い範囲の中で歩道の消えてる部分、引いてない部分があると思うので、そこについては、地区コミュニティ協議会と学校側の思いもあると思うので、長い何kmを全部というわけにいかない部分もあるので、個別に教えていただきたい。

2点目の堤防の法の草払いのことであるが、これも冒頭で会長が申されたように、草払いというのは、非常に各地域から出されてる要望で重要なことであるので、どの部分なのかということと、これも延長がいくらかわからないが、交通安全の問題、

防犯の問題、景観上問題があり、市の管理であれば対応を検討していきたい。

### 【意見：可愛地区コミュニティ協議会会長】

亀山地区から、スクールゾーンのお話があった。これに類似したようなことで、私はキッズゾーンについて、お伺いし、ぜひともお願いをしたい。ぜひやっていただきたいという要望である。キッズゾーン、私どもの可愛地区は、1つの高等学校、1つの中学校が、1つの小学校、3つの幼稚園を抱えている。そういう中で幼稚園のキッズゾーンについて設定のお願いである。市にも令和元年度からキッズゾーンの設定について、国からの依頼が来てるかと思うが、幼稚園でも色々な死亡事故等もあるが、外部へ散歩に園児を連れていく機会も当然ある。そういう中で非常に危ないという先生方からの要望もたくさんある。本市に幼稚園がいくつあるか私も細かくは知らないが、その中でキッズゾーンを検討いただきたい。区画整理をしてやるということじゃなく、ラインをここには幼稚園がある注意ください。ということをして30m、あるいは4、50m前から運転者に認識いただくための標識をやってもらえないか。鹿児島県でキッズゾーンをやってるとこは無い。ぜひ本市でいち早く、1番目にこのキッズゾーンの標識を構えていただきたいと思っている。事件、事故が起こってからでないと警察も取り上げてくれない。交通安全協会も対処が遅い。ライン1つ書くのに何年後かになってしまう。そうじゃなく、このキッズゾーンについて、薩摩川内市は、いち早くやると言った。そういうことを知らしめれば、運転手も、ここには幼稚園がある。注意する気持ちで運転できればありがたい。我々は青パト隊で毎朝の立哨とパトロールカーで巡回しているが、幼稚園が園児を外に出す時のゾーンをなんとか作っていただけないか、という要望である。鹿児島県で、キッズゾーンを引いているのは、またどこもないということを承った。学校法の幼稚園が学校法人化になったのも、本市が1番だったと聞いているので、どうかこのキッズゾーンもいち早く、薩摩川内市は1番目にやるよ。とやったよと、国にも言えるように、なんとか対応はできないか。

そのお願いと、先ほどから、コミュニティ協議会がしっかりしないといけないと、コミュニティ協議会強化の問題も最後になるが、ご報告方々、言いたい。ここに来ている育英と亀山。これは川内北中校区である。北中校区の我々3つが、まとまって情報交換をしながらやっていきましょう。ということで、両会長には常々、話していて、私は北の3兄弟と思っている。この3つのコミュニティ協議会で情報を出し合って、行事も一緒にやっていける。夏祭りとか、運動会とか、一緒にやれば良い。今度、新しくできた河川敷を共用して、利用すれば良いのではないか。ということになっている。今後、北の3兄弟でなんとかやっていきたい。

それと、9月12日に第1回目を行ったが、E H K連絡会を立ち上げた。Eは、可愛地区コミュニティ協議会。Hは、平佐西コミュニティ協議会、Kは、隈之城地区コミュニティ協議会、この3つの協議会は、川内北中、川内南中、川内中央中、この3つの主幹となるコミュニティ協議会ということで、我々はコミュニティの強化、連絡会を開いて、情報を交換しながら、市議、行政と一緒にあったまちづくりを、やっていかなければならないということが一致し、第1回目を立ち上げた。四半期に1回やろうと、この前、平佐西、国際交流センターで、第1回の立ち上げの会を

したが、今度は、隈之城地区でやることになっている。北中、南中、中央中、この3つは、7万人を抱える中学校で、いわゆる旧川内市である。そういう中で、主幹となるコミュニティ協議会が一緒になって、色んな勉強しながら、市議と共有、協調しながらやっていこうということで、いろいろな問題を今日出てきたようなことも出された。いずれは、私たちも勉強しながら、今後ますますやっていきたいと思っているので、この有益性について、ご理解をいただければと思う。力を貸していただきたい。

#### **教育部長**

キッズゾーンの設置について、薩摩川内市内だけを見ても、保育園、幼稚園等については私立を含めて30数カ所ある。日頃、園外活動時には、リアカーみたいなものに、子どもたちを乗せたりとか、保育士や幼稚園教諭が手を引っ張ったりとか、色々されている。会長の提案されたキッズゾーンといった仕組みがあるが、まだ県内ではしていない。実際に園が建ってから、それぞれの地域で子どもたちの安全等を確保する交通安全の取組をしながらやっていて、具体的に県内では動いていない部分等があるので、課題等を見ながら検討していく作業が必要ではないか。という考えている。実際、キッズゾーン設定時には、道路管理者や、地域の方々含めて、全体としての理解が進まなければ、設置できるものではないので、そこも合わせて、緊急検討させていただきたい。と考えている。

#### **市長**

2点目の地区コミュニティ協議会連携の問題であるが、先ほど48地区ごとの地区振興計画のことも申し上げたが、今話されたように、中学校区単位の中のコミュニティ協議会同士の情報共有と、これからのイベントの共同開催、こういったことも、活性化の1つの方向だと思う。具体例で認識しているのは、亀山地区で取り組まれている川内北中学校の中の不登校生と地区コミュニティ協議会との共同作業、そういう組み立てである。これからも地区振興計画の見直しの中で、中学校区内のこれは48地区共通して、中学校区内のコミュニティ協議会同士が連携し、行事開催とか、そういうことが1つの方向かなと考えている。また、市も合併して18年、コミュニティ協議会制度が17年なる。令和4年度、5年度で10年計画を見直すことで、具体的に今準備をしているので、地区振興計画の改定作業と、それから市の10年計画は令和4年度、5年度、同時進行で終えていくので、よろしく願います。